



コミュニティ推進協議会 平成29年度活動方針 生活環境の変化に対応したコミュニティ活動

少子高齢社会が急速に進み、一人暮らしや高齢者世帯が増加し、町内会等の解散や退会者の増加など、コミュニティの環境は大きく変化しています。このような中、楽しむための祭りなどのイベント型から、防災

や福祉などの地域課題への対応に移行していく必要があります。「自分の地域は自分の創意と努力でつくる」という、設立当初の理念のもと、平成31年の国体を機会に、新しいコミュニティ活動を進めます。

主な事業

1 地域福祉活動の充実

地域福祉の担い手の高齢化や人材不足が深刻化しており、市、社会福祉協議会、民生委員児童委員、コミュニティ等が連携強化し、協働体制の構築を推進します。

2 自主防災力の向上

最近の九州土砂災害などに見られる集中豪雨による被害が増加傾向になっており、迅速かつ適切な初期対応をするための、防災力の向上を進めます。

3 茨城国体の成功へ

前回の茨城国体を契機に設立されたコミュニティ推進協議会を進化させるため、平成31年の国体の成功に向け、国体推進委員会を中心に取り組んでいきます。

4 空き家対策

近年、空き家が増加し、防災・

防犯上の問題も抱えています。日立市では「空き家等対策の推進に関する条例」が、平成29年4月から施行されました。コミュニティも積極的な情報提供を行います。

5 コミュニティ自治の構築

コミュニティの基盤となる組織



H29年度総会 活動方針を審議

のあり方について検討を行い、コミュニティの組織強化や人材の確保・育成に努めます。また、交流センターや集会所等の活動拠点施設の活用促進を図ります。

生活に密着した課題の解決



会長 石川諒一

中里学区所属です。中里学区は高齢化率50%と少子高齢化率が市内平均を20年以上も先行しています。その対策として高齢者には乗合タクシー、少子化には小中一貫校による特任校制度を採用し、学区の活性化への努力をしています。

23学区(地区)にはそれぞれに歴史や地域特性、課題があります。一方、高齢化や人口減少におけるコミュニティ活動や福祉活動、災害や空き家の増加等への対応など、23学区(地区)共通の課題が山積し、コミュニティ推進協議会の役割はますます重要になっています。

昭和49年の茨城国体での「花いっぱい運動」などが、コミュニティ推進協議会の設立に発展しました。平成31年の国体を機会に、より進化したコミュニティ推進協議会として、市民生活に密着した課題の解決に取り組みます。また、各学区(地区)では、交流センターを有効に活用して、人間関係の構築と共に良い地域づくりを目指します。

平成29年度役員

- 会長 石川諒一
- 副会長 作山英一 泉 聡二
- 幹事 立川伸平 持田幸雄
- 鈴木茂弘 佐藤孝志
- 監事 福地稔昌 蘭部三吉

それぞれの地域で、みんなの創意と工夫で、住んでいてよかったと思えるまちづくりを!

学区・地区	会長	交流センターTel
十王	深津 正孝	39-2411
豊浦	立川 伸平	43-5755
日高	志賀 勝弘	42-4050
田尻	大森 健一	42-1552
滑川	遠藤 進	22-1654
宮田	田尻 久	27-6835
中里	石川 諒一	70-8005
仲町	福地 稔昌	21-5564
中小路	矢部 敏晴	22-6483
助川	秋山 竹彦	23-0955
会瀬	柴田 和彦	25-1577
成沢	藤井 正孝	35-5587

学区・地区	会長	交流センターTel
油繩子	白玉 敏夫	38-7531
諏訪	持田 幸雄	33-3841
大久保	作山 英一	34-0535
河原子	鈴木 茂弘	33-3746
塙山	西村ミチ江	34-5404
大沼	蘭部 三吉	35-8329
金沢	泉 聡二	36-3985
水木	佐藤 孝志	52-3225
大みか	小松 信保	53-5211
久慈	五来 健夫	52-0165
坂下	大塚 雅夫	52-3155

※お問合せ、ご相談は交流センターへ

日立市が避難所開設担当者(職員)を任命 避難所をいち早く開設、運営するために

今年も九州北部や東海、秋田県などで豪雨による災害が発生し、各地で甚大な被害に見舞われています。いずれの場合も、突然起こった河川の氾濫や土砂崩れにより、尊い人命が奪われ、田畑や家屋があつという間にのみ込まれています。

今日では、このような自然災害はどこでも発生しうる環境にあります。自然災害から自分や家族を守り、被害を最小限に抑えるためには、いち早く安全に避難することが重要です。そのためには、地域住民が連携して行う自主防災訓

練に積極的に参加することが大切です。

日立市では、休日及び夜間に大規模災害が発生した際、直ちに避難所を開設できるようにするため、各学区の近隣に住む職員を避難所開設担当職員に任命しました。

担当職員はすでに、学校をはじめ各学区(地区)コミュニティ役員や防災担当者と一緒に、学校に設置されている防災倉庫の備蓄品や体育館の鍵の開閉、照明の点灯などの確認を行っています。

しかし、避難所の受入れ態勢が

できていても、避難できなければ無意味になります。

海、山、川ありの日立市では、地震だけでなく豪雨による河川の氾濫、土砂崩れなどに対応した防災訓練に参加し、より安全な避難ルートなどを確認しておく必要があります。

毎年、各学区(地区)コミュニティでは、自主防災訓練を実施しています。昨年は、市内23学区(地区)全てにおいて自主防災訓練を実施しました。

訓練に参加して、避難を体験しておくことで落ち着いて避難することができるようになります。

学校運営協議会制度 (コミュニティ・スクール) 会瀬小・駒王中学校がモデル校に

今年度日立市において、学校運営協議会が発足しました。モデル校に会瀬小学校と駒王中学校が指定され、実践研究を行います。県北では日立市が最初の取組となります。

学校運営協議会の特徴は、地域とともにある学校づくりのために

- ①既存の組織をつなぎ発展させる
- ②地域との連携・協働を推進する、などです。

具体的には年間5回程度、地域・保護者・学校の代表者が集まり、

会議を実施します。地域総がかりで子どもを育成するために、学校支援や地域活動のあり方等について話し合いを行います。

6月13日(火)に会瀬小で実施された第1回目の会議では、今年度の運営方針や計画について協議し、運動会や合同防災訓練の実施と内容、砂遊び集会の進め方と地域の協力など、それぞれの立場で来年度に反映できるよう話し合いました。

学校からの学習支援ボランティア要請や、地域からの三世代敬老の集いへの児童たちの協力依頼など、制度に基づいて行っていきます。

地域わんぱく隊事業 子どもたちの自主性や社会性も

市内23のコミュニティのうち、平成29年度は19単会が日立市補助金等交付事業「地域わんぱく隊事業」を実施しています。

共同生活を行い、遊びやボランティア、文化体験などを通じて、



子どもたちの「生きる力」を育むとともに、「地域の教育力」の向上につなげていくことを目的として宿泊体験事業を行っています。

各学区では、各種団体が連携をして地域の特性を活かした活動を展開しています。この宿泊体験を通して、異年齢の子どもたち同士や子どもと大人の交流を図ることにより、子どもたちの自主性や社会性が育まれると同時に、自分たちの住んでいる地域の良さを知る機会になることを願っています。

豊浦学区の水泳教室 泳げる子どもを一人でも多く

豊浦学区では、泳げないで小学校を卒業する子どもたちを少しでも減らそうと、23年前から夏休み期間中に小学校のプールを活用



して水泳教室を開いてきました。

当初は4年生以上が対象でしたが、今では1年生からを対象にし、8日間、1日2時間指導しています。毎年、水を怖がり、泳げなかった子どもたちが、8日目には怖がらずに泳げるようになっています。

今年は79名が参加し、定年退職者を中心としたスタッフ9名と、高校生、大学生の協力を得て指導しています。これからも、泳ぎのできる子どもたちが一人でも多くなるように応援していきます。

夏の早朝の健康づくり ラジオから流れる1,2,3,4のかけ声と音楽に乗って

どこでも気軽に
地域に浸透しつつあり!

ラジオ体操が、地域に浸透しつつあります。音楽に乗ってどこでも気軽にできることもあり、コミュニティ、子ども会、老人会など多くの地域団体が実施しています。特に夏休みは集会所や公園などでラジオ放送に合わせ、子どもと大人と一緒に体を動かしている姿をみることができます。

日立市が平成14年度からラジオ体操普及を始めたのをきっかけに、平成15年度から夏休みラジオ体操会を毎年行っている塙山学区、平成18年度から一年中ほぼ毎日実施している日高学区など、多くのコミュニティで取組が行われています。

また、夏休みを元気で過ごすため、日立市が推奨する「夏休みチャレンジラジオ体操」に、今年度は40団体が応募して健康維持に努めました。これを契機に継続していきましょう。

日立市で巡回ラジオ体操 子どもや大人2,500人が参加

新しい朝が来た、希望の朝だ、

喜びに胸を開け、大空あおげ、で始まる「ラジオ体操の歌」が日立市に15年ぶりに戻ってきました。

平成29年7月31日(月)、市民運動公園陸上競技場で夏季巡回ラジオ体操・みんなの体操会が実施されました。天気は晴れ、太陽がまぶしく輝いている朝でした。参加者は、約2,500人でした。

午前6時に開会式が行われ、小川春樹日立市長から「ラジオ体操は日立市水木町出身の遠山喜一郎さんが考案しました。郷土の誇り



朝から元気に1,2,3!

です。日立市をラジオ体操のまちにしましょう」との挨拶がありました。ラジオ体操指導者の岡本美佳さんの指導による準備体操で始まり、6時15分からリハーサル、6時30分から本番、ラジオ体操

の歌、ラジオ体操第1、第2を行って6時40分に終了しました。

その後、小川市長とのじゃんけん大会があり、勝ち残った子どもたちは賞品を受け取り嬉しそうな顔で満足気に会場をあとにしました。夏休みの良い思い出になったことでしょう。

もっと日立が好きになる! 歩いて見つけて地域のいいところ

秋の恒例行事となった「日立の魅力再発見ウォーク」は19回目を数え、今年も各コミュニティが地域の特色を生かした魅力的なコースを企画しています。

全20コースの実施日は表のとおりです。コースの内容や申込期間など詳細は、市報やコミュニティ推進協議会のホームページ、日立市ホームページをご覧ください。

秋の爽やかな一日、日立の魅力に触れながら歩いてみませんか。お住まいの地域にかかわらずどのコースにも参加できます。

平成29年度 日立の魅力再発見ウォーク実施日

学区・地区	実施日	市報掲載
1 諏訪	9/24(日)	9月5日号
2 豊浦	9/30(土)	
3 会瀬	10/1(日)	
4 宮田	10/13(金)	
5 大久保	10/14(土)	
6 大沼	10/14(土)	10月5日号
7 滑川	10/15(日)	
8 金沢	10/15(日)	
9 河原子	10/22(日)	
10 成沢	10/27(金)	
11 水木	10/28(土)	10月20日号
12 十王	10/29(日)	
13 仲町	10/29(日)	
14 油縄子	10/29(日)	
15 大みか	11/5(日)	
16 田尻	11/12(日)	10月20日号
17 中里	11/12(日)	
18 助川	11/15(水)	
19 中小路	11/18(土)	
20 久慈	11/25(土)	

茨城国体を花で飾ろう! 単会でサルビアの栽培はじまる

平成31年に開催される「いきいき茨城ゆめ国体」に向けた花いっぱい運動が始まりました。

この運動は国体が行われる会場等を中心に、日立市内を花で飾り国体で来市される多くのお客様を



花も育てるコミュニティ

きれいなまちで迎えようというものです。実施に向けて、コミュニティ推進協議会の国体推進委員会で協議を重ねてきました。今年度は試行栽培の年と位置づけ、各単会でプランター10個にサルビアを栽培、10月8日(日)に開催される「ぶら・スポフェスタ2017」に合わせて、池の川さくらアリーナ周辺に飾花する予定です。

国体が行われる平成31年に向けて、今後プランターの数や花の種類を増やししながら、花いっぱい運動をさらに盛り上げていきます。茨城国体をみんなで成功させましょう。



子ども会の加入率が減少 存続への努力と新たな動き

子ども会への子どもの入会率が減少して存在が薄れつつある中で、新たな概念や組織で活動をはじめた学区を紹介します。

助川学区新たな試み 学年超え交流 地域の子地域で育む【学校子ども会】

子どもたちの学校外活動の多様化や少子化などで子ども会活動が停滞している中、助川学区コミュニティ推進会は、助川小学校の児童全員が参加する「学校子ども会」を立ち上げました。子どもと地域の関わりを重視し、子ども会の縦割り活動を学校教育の一環として取り組む新たな試みは、一つのモデルケースになるかもしれません。

少子化や習い事のほか、負担感から役員のみ手が少なく、助川学区では、平成28年に子ども会皆無という状況になりました。

この事態を前に、助川学区コミュニティ推進会は平成27年5月、子どもの育ちには家庭、学校、地域が不可欠とし、助川小、同小PTA、子ども会育成連合会の代表者らで特別委員会を設置し、持続可能な組織の在り方や保護者の負担軽減、子どもを通じた地域のつながりなどの検討を始め、同コ

ミュニティ推進会の支部編成と同じ地区割りで平成28年に「学校子ども会」を設立しました。

活動は学校の教育活動の一環とし、当面は学校で授業時間を利用して、登録した学校子ども会サポーターが支援指導を担っています。

昨年は、6月に集団のリーダーを選び、10月、2月に集団ごとにじゃんけん大会、昔あそび、1～6年生が楽しめるゲームを行い、



地域サポーターが活躍

ゲームの答えに窮した下級生に上級生が助け舟を出す場面でも、教職員やサポーターは見守りました。2年目の今年も同様の活動が続いています。リーダーは「まとめるのは大変だが学年を超えて交流できてよかった」と満足そう。「一人ひとりに役割があり、子どもたちを育てる地域の教育力の向上が、定着の鍵」となりそうです。

百年塾とコミュニティ

ひたち生き生き百年塾推進本部

「ひたち生き生き百年塾」は昨年に続き29年度のテーマとして、『探そう 創ろう 日立の“いいね”』を基に活動を推進しています。

自然、名所や史跡、産物、お店など日立のよさを市民のみなさんと共有し、再発見しながらそれらを活かした新たな取り組みを創り出したいと考えます。

日立のよさをブロック別にまとめた「日立の“いいね”おもてなしマップ（仮称）」を発行し、広く市外にも発信していきます。

地域をよく知り学ぶために、各コミュニティ訪問に力を入れ、連携講座をはじめとしたコミュニティに役立つ事業の説明・提案や意見交換を行うなど、コミュニティと百年塾とがより一層の連携ができるよう努めます。

加入率の高い学子連のヒミツ

高加入率を保っている学子連（学区子ども会育成連合会）の会長に聞きました。ヒントになる施策をいくつか紹介します。

1. コミュニティ、学子連、単会子ども会の強力な三者連携
2. 地域行事に子ども会が参加
3. 三者連携で、子どもも大人も楽しめるイベント開催
4. 情熱と信念のあるリーダーの力
5. 子どものために頑張ろう！という親の意識、父親の理解と参加
6. 集団登下校で異学年の交流と思いやり。遅れた子どもの家に迎え
7. 親同士の情報交換や仲間づくり
8. 子ども会への加入の声掛け
9. 行事案内で加入促進。目的を明記、子ども会加入の魅力づくり

市子ども会育成連合会 事業と支援策

■加入状況（平成29年度）

- 1) 全児童数 8,455名
- 2) 加入率 35.1%

■事業

- 1) 子ども会リーダー育成
- 2) コミュニケーションを図る
・春の写生会・秋の子どもまつり

■加入率向上策

- ・単会の活動支援とリーダー育成
- ・コミュニティとの連携

コミュニティFMで情報発信中！

コミュニティFM（FMひたち）で各コミュニティ主催のイベント情報などを紹介しています。

■放送局

FMひたち（82.2MHz）

■放送日時

毎週土曜日 午後1時40分頃から（約5分間）

■番組名

いいねが！イッパイ日立市 Saturday コミコミ情報局